

頭(知能)が良い・悪いと一次元で捉えるのではなく、
多次元の組み合わせ、その発現で捉える
—梶田 叡一先生にインタビュー—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



梶田 叡一

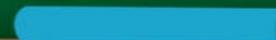
かじた えいいち

聖ウルスラ学院 理事長

京都大学文学部卒、文学博士（京都大学）

国立教育研究所主任研究官、大阪大学教授、京都大学教授、兵庫教育大学学長など
教育改革国民会議委員、中央教育審議会副会長、
初等中等教育分科会長ほか歴任。
2022年叙勲（瑞宝重光章）

『自己意識の心理学』『子どもの自己概念と教育』（東京大学出版会）、『教育評価 第2版』（有斐閣双書）、『<いのち>の教育のために』『人間教育のために』（金子書房）など多数



No140

基礎・基本を基盤としつつも、人と比較して
「できる・できない」ではない

子どもたちに青天井の可能性を
示す学校教育であってほしい

溝上の恩師・梶田叡一先生にインタビュー



No145

助手の時にした大失敗をなぜ怒らなかったのかを
恩師に30年経ってはいじめて聞きました
—梶田叡—先生へインタビュー



頭（知能）が良い・悪いと一次元で捉えるのではなく、
多次元の組み合わせ、その発現で捉える

- スピアマンの2因子説（1904-1912年）

- ①一般因子（general factor）

- …どんな課題にも用いられる共通の知的能力

- ②個別因子（specific factor）

- …ある固有の問題を解くために必要な能力）

- サーストンの多因子説（1938年）

- ①言語理解

- ⑤数

- ②語の流暢さ

- ⑥連想記憶

- ③空間

- ⑦帰納的推理

- ④知覚の速さ

- ギルフォードの知能構造モデル（1955年）

- ①内容

- …情報の種類や型などのことで、4種類の因子から成る

- ②操作

- …情報処理の心的操作のことで、5種類の因子から成る

- ③プロダクト（産物）

- …操作した結果や概念形成のことで、6種類の因子から成る

- ①～③の組み合わせにより、120因子～150因子、最終的には180因子が提起された

- ガードナーの多重知能理論（1983年）

- ①言語的知能

- ⑤音楽的知能

- ②論理・数学的知能

- ⑥対人的知能

- ③視覚・空間的知能

- ⑦内省的知能

- ④身体・運動的知能

- ⑧博物的知能

→どの人も固有の知能の組み合わせパターンを持っている

（参考）ガードナー, H. (著) 松村暢隆 (訳) (2001). MI：個性を生かす多重知能の論理 新曜社

それではご覧ください